

専門業者様向け

アイジールーフ 施工説明書 **改修用**

- ◆スーパーガルテクトフッ素
- ◆スーパーガルテクト
- ◆スーパーガルテクトC

2024年9月版

施工説明書のご使用にあたって

- 施工説明書は、アイジールーフを安全に正しく施工をしていただくための重要な情報を記載しています。
 - 施工説明書に記載の基本事項をご理解の上、実際の現場に即した、安全で確実な設計と施工を行っていただきますようお願い致します。
-
- アイジールーフの保証書の発行には、施工説明書に記載している施工方法に従っていただくことが必要です。
 - 施工説明書に記載している設計基準・施工基準を満たさない納まりや施工方法は、弊社では責任を負いかねますので、元請様や工事店様のご判断とご責任の上で行っていただくようお願い致します。それらの納まりや施工方法については、弊社は免責とさせていただきます。
 - 施工説明書に掲載している納まりや施工方法は、アイジールーフの機能や性能を確保するための代表的な例です。
 - 施工説明書は、掲載していない納まりや施工方法を制限するものではありませんが、アイジールーフの機能や性能を確保できる方法を選定してください。
 - 施工説明書内で示す寸法値は、設計値です。施工においては、納まりの状況により前後することがあります。
 - 元請様と弊社が協議し、別に定めた施工説明書がある場合は、本施工説明書の定める限りではありません。
 - 施工説明書は、最新の見聞、検証により予告なく記載仕様の一部を改訂する場合があります。最新の施工説明書を参照ください。
-

目次

事故防止のために	1	直張工法	14
取り扱い時のお願い	2	施工の手順	14
・運搬、保管上の注意	2	下地の調整	
・施工上の注意	2	・既存棟包み、既存隅棟包みの取り外し	15
・その他	2	・既存ケラバ水切の加工	15
アイジールーフを美しく保つために	3	・既存雨押えの加工	15
・クリーニングについて	3	・下葺き材の施工	16
・表面材にキズが付いたとき	3	本体の施工とポイント	
・防水について	3	・墨出し線への合わせ方	17
・大気汚染について	3	・本体の施工	17
・安全に関する注意	3	各部の納まり	
アイジールーフ適用地域一覧	4	・軒先の納まり	18
施工に必要な工具	5	・ケラバの納まり	22
本体・部材規格	6	・棟の納まり	35
・本体断面形状図	6	・隅棟の納まり	38
・本体規格	6	・谷の納まり	47
・物性表	6	・壁との納まり	51
・部材規格	7	・換気棟の納まり	56
改修物件の調査・確認	9	・雪止めの納まり	64
工法の確認	10	合板下地工法（カバー）	65
・既存屋根による工法の選定	10	施工の手順	65
・既存下地の状態による工法の選定	10	下地の調整	66
・下地強度の測定試験方法（推奨）	11	下葺き材の施工	67
・ジョイント下地の施工について	11	本体の施工とポイント	68
下葺き材・留め具の選定	12	各部の納まり	69
・たる木留め（標準施工）	12	合板下地工法（葺き替え）	74
・野地板留め	13	各部の納まり	74
		積算方法	75
		改修物件チェックシート	77
		瑕疵担保保険申請時のご注意	78
		免責事項	78

事故防止のために

アイジールーフは屋根材です。
屋根以外の部位に使用しないでください。



警告

死亡または重傷を負う可能性が
想定される場合の表示です。

1. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
風にあおられる・雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
2. 高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
3. 既存の屋根用スレートの解体、破砕などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。著しい健康障害を招く可能性があります。
4. 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。



注意

取り扱いをあやまると障害を負う
危険や物的損害などの可能性が想
定される場合の表示です。

1. アイジールーフは2.5寸以上の勾配で使用してください。
2.5寸未満の勾配では漏水のおそれがありますので使用できません。
・勾配と流れ長さの制限
- | | | |
|------|-------------|--------|
| 勾配 | 2.5寸～3.5寸未満 | 3.5寸以上 |
| 流れ長さ | 7m以下 | 20m以下 |
2. 取り扱いの際は、ゴム付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。けがをする可能性があります。
 3. 現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。けがをする可能性があります。
 4. 防水のため、施工の際は下地に下葺き材を施工し、働き幅による割り付けを行ってください。
 5. アイジールーフは一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります（P4参照）。
 6. 落雪による事故を防止するため雪止めを使用してください。
 7. 包装材・残材などは産業廃棄物として処分してください。
 8. シーリング・タッチアップペイントなどは安全データシート（SDS）に従って正しく使用してください。
 9. 電動工具など、工具を使用する際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。

取り扱い時のお願い

運搬、保管上の注意

- ・1ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。
- ・車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みにしてください。
- ・急ブレーキなどによる荷崩れ、損傷を防ぐため、ロープをかけ、角には必ず当て板を入れてください。
- ・ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けは避けてください。
- ・商品の保管は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所で行ってください。
- ・屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。また防水シートが風などで飛ばないようにしてください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
 - 商品を放り投げる、または落とすこと。
 - 商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。
 - 商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに載せて斜めに置き、保管や運搬をすること。
 - 商品をりん木やフォークリフトのつめに直に置き、2点支えにすること。
 - 商品より小さなパレットなどを使用すること（パレットの角で商品が破損するおそれがあります）。
- ・商品を保管するときにはできるだけ横置きにしてください。
- ・商品を一時的に保管する場合は、次のことに注意してください。
 - 荷上げの際の落下事故には十分に注意してください。
 - 保管する重量に見合った滑落防止策を講じてください。
 - 本体を立てかける場合は、端部が破損するおそれがありますので、本体の左側（断熱材がない方の端部）を上にしてください。

施工上の注意

- ・アイジールーフは木造下地専用です。
- ・商品が電線に接触すると感電する可能性があります。電線に触れないように注意してください。併せて事前に電力会社に依頼するなど、感電防止処置を講じてください。
- ・下地に下葺き材を施工してください（P16、67参照）。
- ・下葺き材の施工後に、たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・商品を施工する前に働き幅で墨出しを行い、その墨に合わせて施工してください。
- ・商品にモルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。
- ・エアネイラーを使用する場合は、アイジールーフのしん材のつぶれやくぎの頭抜けがないように、事前に圧力調整を行い打ち込み深さを確認してから施工してください。留め具は、施工する工法に即した長さを選定してください。番線タイプのくぎは、施工後に番線が飛散しキズやさびの原因にもなりますので使用しないでください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、商品に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。
- ・横ジョイント部、差し棟キャップ、換気棟は変形のおそれがありますので、上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
- ・すりキズ防止のために、商品の表面を直に地面に置く、金属製足場板など硬いもので擦るなどの行為は避けてください。
- ・商品の塗装が傷みますので、表面材に切断時の切粉、火花などを当てないでください。
- ・表面材にキズが付いた場合には、純正のタッチアップペイントで補修してください。タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみに使用してください。
- ・くぎ打ち部や下葺き材に、打ち損じなどの穴ができた場合は、シーリング材や防水テープで防水処理をしてください。
- ・上階の屋根からの樋は必ず軒先まで通し、下階の屋根面へは排水しないでください。
- ・さびや汚れの原因になりますので、商品を切断した際に出る切粉は、ハケなどで必ず払ってください。
- ・アイジールーフに、銅などの異種金属からの雨水が接触すると、電食が起こる場合があります。異種金属との取り合いには注意してください。
- ・アイジールーフには必ず純正部材を使用してください。それ以外の部材では十分な性能を得られないことがあります。
- ・合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。（P68参照）
- ・部材の留め付け間隔は455mm以下としてください。

その他

- ・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合部などからまれに音が発生する場合があります。
- ・小屋裏にテレビアンテナを設置している場合、金属屋根の施工でテレビの「映像が乱れる」「映らない」といった受信障害が出る可能性があります。テレビの受信状況の確認やテレビアンテナの対策作業を行ってください。

アイジールーフを美しく保つために

クリーニングについて（表面材に汚れが付着したとき）

- ・表面材をクリーニングする場合は、から拭きか、水または中性洗剤で洗浄してください。酸性やアルカリ性の洗剤は塗膜を傷め変色、腐食を招くおそれがあります。洗浄する際は、温水（ぬるま湯程度）を使用すると汚れが落ちやすい傾向があります。中性洗剤で洗浄した後は、水でよく洗い流してください。
- ・洗浄用具としては、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどは使用しないでください。表面材にキズが付き腐食を招くおそれがあります。

表面材にキズが付いたとき

タッチアップペイント（純正品）による補修について

注意事項

- ・タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみで使用してください。本体や部材の変形を伴うキズや、広範囲にわたる塗装には使用しないでください。
- ・タッチアップペイントは常乾タイプの塗料で、本体、部材と塗料タイプが異なります。このため、色調や艶などに差異が発生し、補修箇所が目立つことがあります。また、ちぢみ塗装品は表面意匠の特性より、補修後も同じような意匠を再現することはできません。あらかじめご了承ください。
- ・タッチアップペイントは使用前に容器を振り十分に攪拌してください。容器を振る目安は、カタカタという音が聞こえてから30秒以上です。
- ・事前に商品の端材や目立たない箇所で試し塗りを行い、色調を確認してください。
- ・遮熱性フッ素樹脂塗装の商品（スーパーガルテクトフッ素など）に、タッチアップペイントを使用する場合は目荒しが必要です。補修するすりキズ部分に、目荒しを行ってください。目荒しを行わない場合、タッチアップペイントと表面の塗膜に密着性が得られませんので注意してください。
- ・補修の前に表面の汚れ、ほこり、水分などがある場合は布などで拭き取ってください。
- ・補修する場合は、タッチアップペイントを薄く重ね塗りしてください。補修部分は目立ちますので、できるだけ丁寧な取り扱いをお願いします。
- ・塗装場所の気温が著しく低い場合（5℃以下）や、雨や露などにより被塗面が濡れる場合や、換気が十分でなく結露が考えられる場合は、補修を避けてください。
- ・火気には十分に注意してください。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気やガスなどを吸い込まないようにしてください。
- ・取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクや送気マスク、保護めがねや保護手袋・前掛けなどを着用してください。
- ・火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用してください。
- ・目に入った時は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の石けん水で洗い落とし、痛みや外観に変化が認められる場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・蒸気やガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合は、風通しのよいところで安静にし、必要に応じてできるだけ早く医師の診察を受けてください。

防水について

- ・シーリング材は2～3年を目安に点検してください。
経年変化による劣化で切れが生じた場合には、補修することにより漏水を未然に防いでください。

大気汚染について

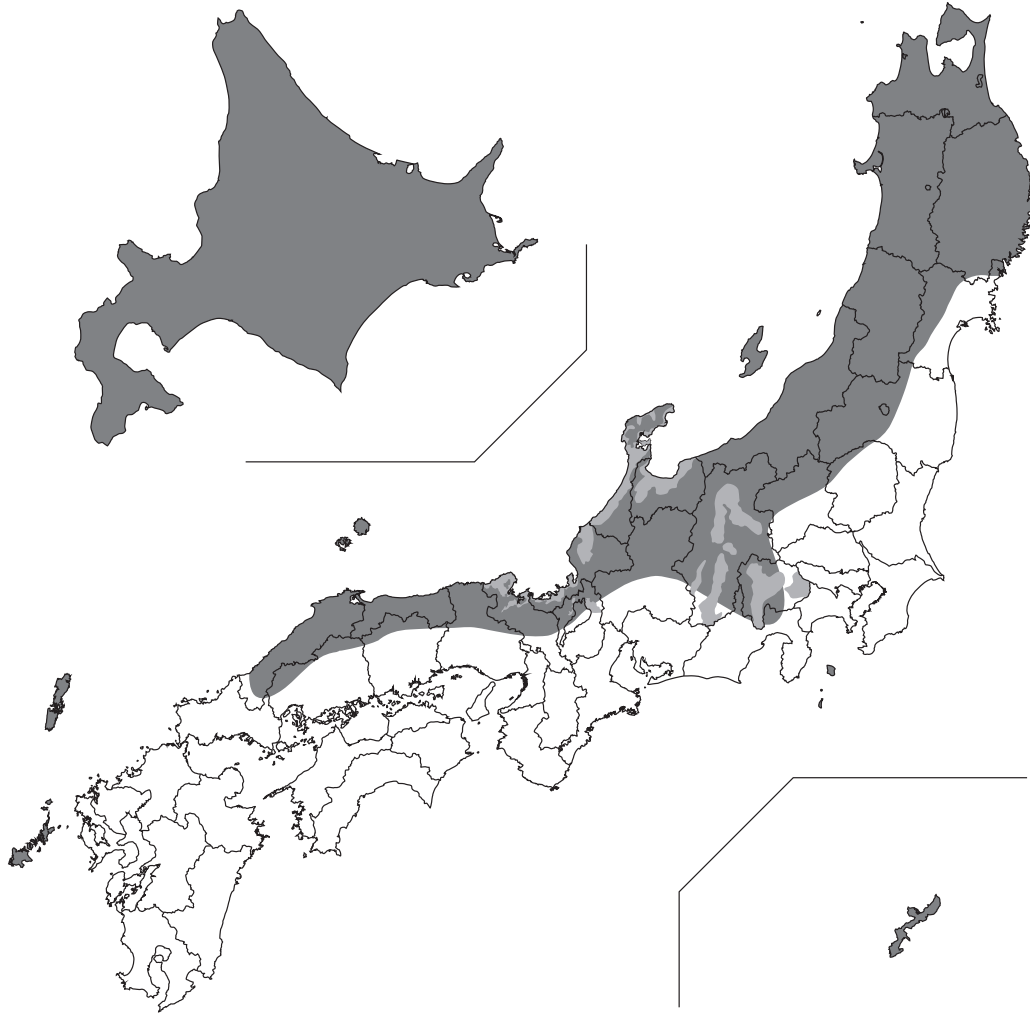
- ・大気中には表面基材の腐食の原因となるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海岸地帯の海塩粒子、凍結防止剤など、多種多様な要因があります。近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性の低下やさびの発生に至る場合があります。

安全に関する注意

- ・お施主様ご自身で高所作業を伴う点検やお手入れは絶対に行わないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・点検は、屋根を目視で確認できる範囲にとどめてください。高所作業の場合は、専門業者に相談してください。
- ・再塗装などの補修工事はお施主様ご自身では絶対に行わないでください。専門業者に相談してください。
- ・雨などで濡れた屋根の上には絶対に乗らないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・洗剤を使用しての洗浄の際は、周辺の生物に影響がないよう、十分に注意してください。

アイジールーフ適用地域一覧

スーパーガルテクトは、最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の一般地域で使用可能です。積雪量の多い地域では、すが漏れの恐れがあるため施工不可としています。準一般地域では別途施工基準を設けておりますので、詳しくは最寄りの営業所へお問い合わせください。



この全国積雪分布図は、気象庁編集による一般財団法人気象業務支援センターが発行した「メッシュ気候値2000」をもとにアイジー工業㈱が独自に作成したものです。

適用区分	年間平均最深積雪量
一般地域	標準仕様にて施工可
準一般地域	積雪地区対応仕様にて施工可（最寄りの営業所へお問い合わせください）
施工不可地域	おおむね30cm以上の積雪地域、沖縄県及び離島

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な

本体・部材規格

改修物件の調査・確認

工法の確認

下書き材・留め具の選定

直張工法

合板下地工法（カバ）

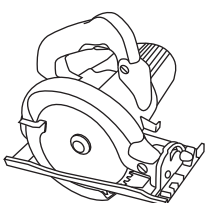
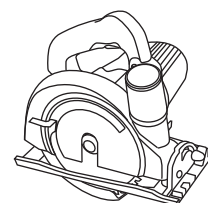


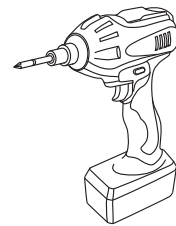
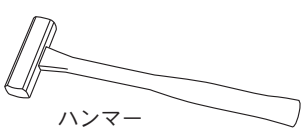

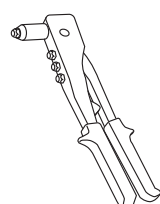

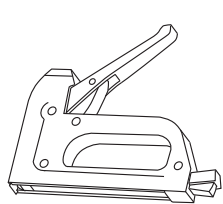
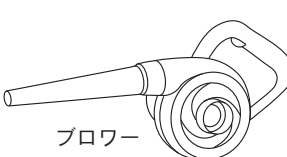

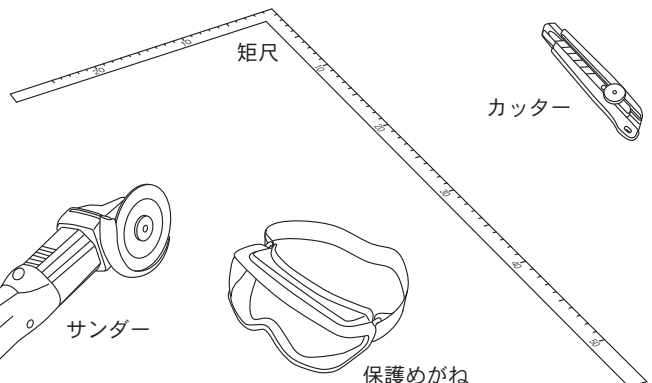

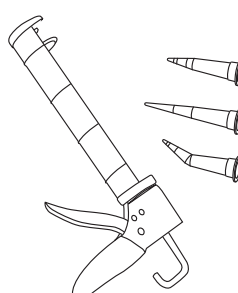
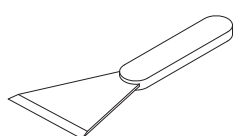
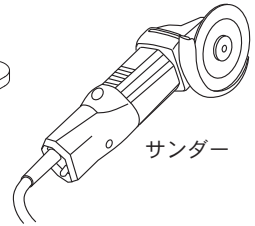
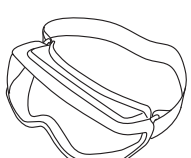

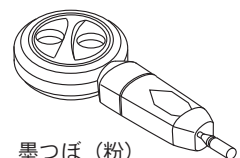
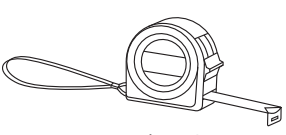
合板下地工法（葺き替え）

積算方法

改修物件チエックシート

免責事項

施工に必要な工具

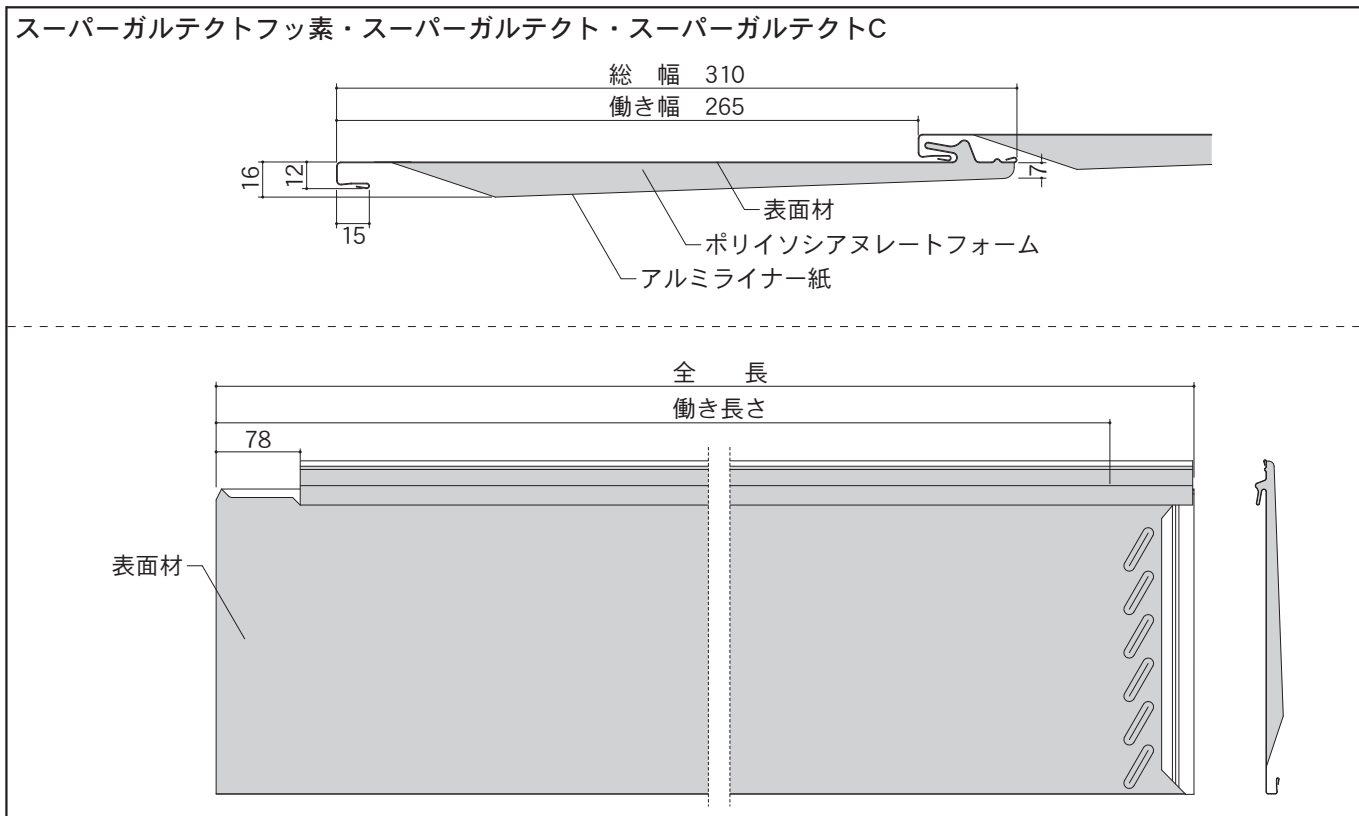
切断工具類		折り曲げ工具類	
 電動丸のこ	 防塵丸のこ	 はさみ	 つかみ
取り付け工具類			
 インパクトドライバー	 ハンマー	 釘抜き	 リベッター
		 釘しめ	 タッカー
その他の工具類			
 ブロワー	 はけ	 矩尺	 カッター
 コーキングガン	 スクレーパー	 サンダー	 保護めがね
	 水系	 墨つぼ(粉)	 スケール

⚠切断工具、穴あけ工具、ブロワーなどを使用する場合は必要に応じて保護眼鏡などの保護具を使用してください。
 ○上記の工具は代表的な工具であり、施工状況に合わせて他の工具が必要になる場合があります。
 ○屋根の上では、丸のこを使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、近隣への飛散を防止し、屋根についた切粉は完全に除去してください。

本体・部材規格

本体断面形状図

単位：mm



本体規格

商品名	働き長さ	全長	入り数面積	入り数	働き幅	総幅	厚さ	重量
スーパーガルテクトフッ素 スーパーガルテクト	2,960mm	3,038mm	4.71m ²	6枚	265mm	310mm	最大16mm	5.0kg/m ²
スーパーガルテクトC	1,820mm	1,898mm	2.90m ²					

商品名	表面材
スーパーガルテクトフッ素	エンボス加工遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)
スーパーガルテクト スーパーガルテクトC	エンボス加工遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)

超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板です。

物性表

項目	性能値	試験方法	試験体仕様
しん材熱伝導率	0.032W/mK (0.028kcal/mh°C)	JIS A 1412-2	
熱貫流率	1.19W/m ² K (1.02kcal/m ² h°C)	JIS A 1420	下地条件：アスファルトルーフィング940 住宅屋根用化粧スレート アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm、たる木 (間隔：455mm)
水密性	平均圧力 750Pa (76kgf/m ²)	JIS A 1414	下地条件：アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
耐風圧性	正圧：4,000Pa(407kgf/m ²)以上 負圧 ^{※1} ：5,500Pa(560kgf/m ²)	空気圧による 等分布荷重	本体留め具 ^{※2} ：ルーフ用ビス4×55 下地条件 ^{※3} ：構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
加工性	2T (塗膜剥離しないこと)	-	
耐食性	1,000時間	JIS Z 2371 塩水噴霧試験	

■上記物性データは性能参考値です。環境によって異なった数値になる場合があります。

※1 耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。

※2 くぎでの性能値は、別途お問い合わせください。

※3 防水のため、下葺き材を施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具

本体・部材規格

改修物件の調査・確認

工法の確認

下葺き材・留め具の選定

直張工法

合板下地工法 (カバ)

合板下地工法 (葺き替え)

積算方法

改修物件チェックシート

免責事項

本体・部材規格

部材一覧

単位：mm

商品名	改修用唐草D	改修用唐草SB	改修用一体唐草16	改修用一体唐草29	唐草G50
商品図					
梱包単位	L=2,727 5本/包	L=2,727 5本/包	L=2,727 5本/包	L=2,727 5本/包	L=2,727 5本/包
商品名	ケラバ水切	ケラバ水切エンド	ケラバ水切100エンド(左)	改修用ケラバ水切100	ケラバ水切100エンド(右)
商品図					
梱包単位	L=2,727 5本/包	50個/箱	30個/箱	L=2,727 5本/包	30個/箱
商品名	棟・隅棟包みD	棟巴	差し棟キャップD3寸	差し棟下地N	差し棟キャップD5寸
商品図		 スーパーガルテクト・スーパーガルテクトCのみ		2024年7月1日発売 	
梱包単位	L=2,727 5本/包	15個/箱	2.5寸~4.5寸配用 20個/箱	L=2,727 5本/包	5寸~6寸配用 20個/箱
商品名	剣先	剣先120	谷樋D(II)	改修用谷止縁	改修用壁押えD(II)
商品図					
梱包単位	2.5寸~4.5寸配用 5本/箱	5本/箱	L=2,727 1本/包	L=2,727 4本/包	L=2,727 5本/包
商品名	壁押えD(II)	改修用壁押えカバー	換気棟	換気棟用エンドキャップ	換気棟L
商品図					
梱包単位	L=2,727 5本/包	L=2,727 5本/包	下地・捨水切同梱 2.5寸~10寸配用 1セット/箱	2.5寸~10寸配用 2個/箱	下地・捨水切同梱 2.5寸~10寸配用 1セット/箱

本体・部材規格

部材一覧

単位：mm

商品名	片流れ用棟包み ^(注1)	片流れ換気用水切 ^(注1)	片流れ用換気棟	C型捨板	L型捨板
商品図			 片流れ換気用水切 捨水切・固定ビス同梱 2.5寸～6寸勾配用 L=2,150		
梱包単位	5本/包	5本/包	1セット/箱	4本/包	5本/包
商品名	雪止めGT(Ⅲ)ハネタイプ	ジョイント下地 ^(注2)	ケラバ面戸	平型面戸	段付面戸D
商品図	 材質：ステンレス(アクリル塗装)			 材質：発泡EPDM L=2,000	 材質：発泡EPDM
梱包単位	50個/箱	30個/箱	100個/箱	50本/箱	50個/箱
商品名	10MコイルD	防水テープ	防水テープD	ルーフ用ビス 4×55	タッチアップペイント
商品図		 材質：ブチルゴム系粘着材 両面接着タイプ L=20m	 材質：ブチルゴム系粘着材 片面接着タイプ L=20m	 材質：ステンレス(ディスコ処理)	 内容量=15ml
梱包単位	1本/箱	—	—	300本/箱	—
商品名	エコシーリング	エコシーリングホルダー			
商品図	 別売りホルダーが無いと 使用できません。 材質：変成シリコーン 内容量=320ml				
梱包単位	10本/箱	2本/箱			

・スーパーガルテクトフッ素用部材の材質は遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。
 ・スーパーガルテクト、スーパーガルテクトC用部材の材質は遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。
 ・超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板です。
 ・タッチアップペイントと商品は塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。
 ・スーパーガルテクトフッ素にタッチアップペイントを使用する場合は目荒らしが必要です。
 (注1)・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつないで施工する場合は、片流れ用棟包みと片流れ換気棟用水切を併用して施工してください。
 (注2)・合板下地工法で施工する 3.5 寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。

事故防止のため
 取り扱い時のお願い
 アイジールーフを美しく保つために
 アイジールーフ適用地域一覧
 施工に必要な工具
 本体・部材規格
 改修物件の調査・確認
 工法の確認
 下書き材・留め具の選定
 直張工法
 合板下地工法(カバ)
 合板下地工法(書き替え)
 積算方法
 チェックシート
 改修物件
 免責事項

改修物件の調査・確認

改修物件の事前調査・確認、及びお客様との打ち合わせは、確実に効率のよい加工をする上で大切なことですので十分に行ってください。

既存の屋根用スレートの解体、破碎などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。なお、関係法規や工事の届け出、廃棄物の処理方法などにつきまして不明な場合は、所轄する労働基準監督署や自治体の担当窓口へ相談してください。

既存屋根

改修対象の既存屋根材を確認してください。

既存屋根材：住宅屋根化粧スレート／アスファルトシングル／鉄板平葺き／和瓦など

下地の確認

屋根の破損状況、反り、腐朽などを確認し、下地のくぎの保持力を確認してください。小屋裏より雨漏りの有無や腐朽の程度を確認してください。反りや腐朽のひどい場合は施工できません。漏水を確認した場合は、対策を講じてください。

屋根面を歩行した場合の浮き沈み、あるいは、屋根面の屋根面の波うちなどの不具合がないことを確認してください。

勾配と流れ長さ

施工可能な勾配と流れ長さの制限があります。

勾配と流れ長さを測定し、下表の数値以内であることを確認してください。

勾配	流れ長さの制限
2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下
3.5 寸以上	20m以下

雨どい

取り替えることをお勧めします。

施工範囲および障害物の確認

バルコニー、テレビアンテナ、エアコンディショナー、太陽熱温水器まわりの施工箇所を確認してください。場合により、別途工事が必要となります。

留め付け方

本体の留め付けは、たる木留めを推奨します。たる木の位置を確認してください。

やむを得ずたる木に留め付けられない場合は、野地板留めでの施工を選択してください。

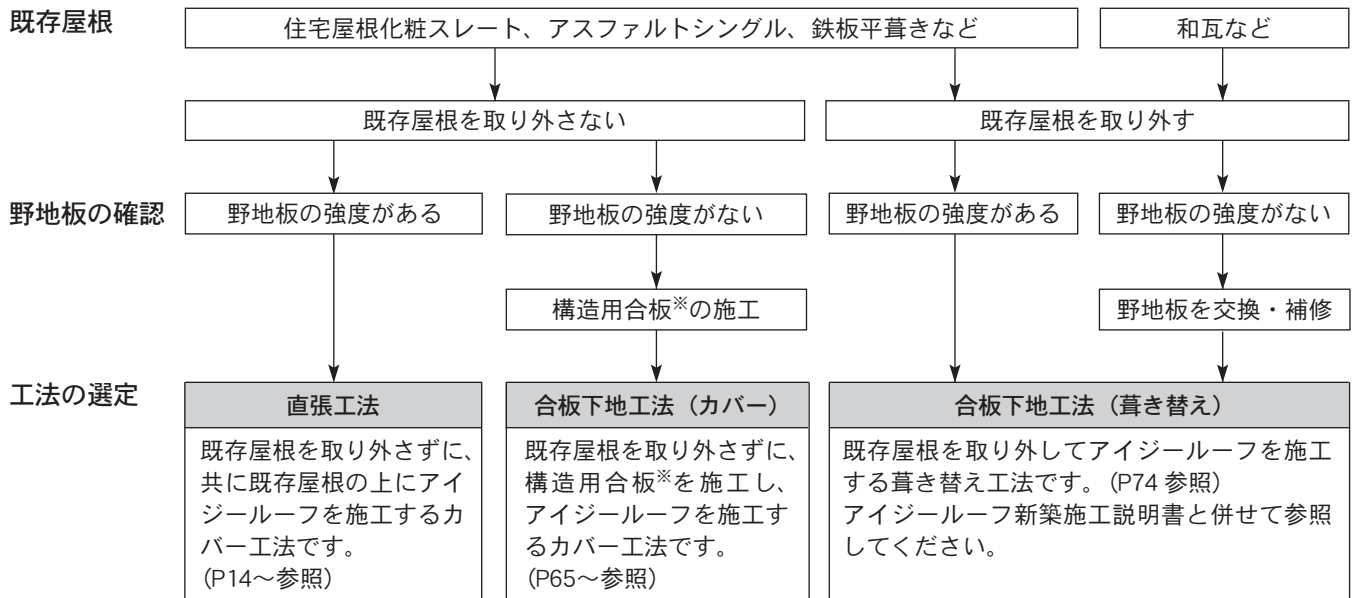
下葺き材の選定

屋根の勾配、工法や留め付け方法により、対応できる下葺き材が異なります。

施工する工法と、留め具を確認してください。

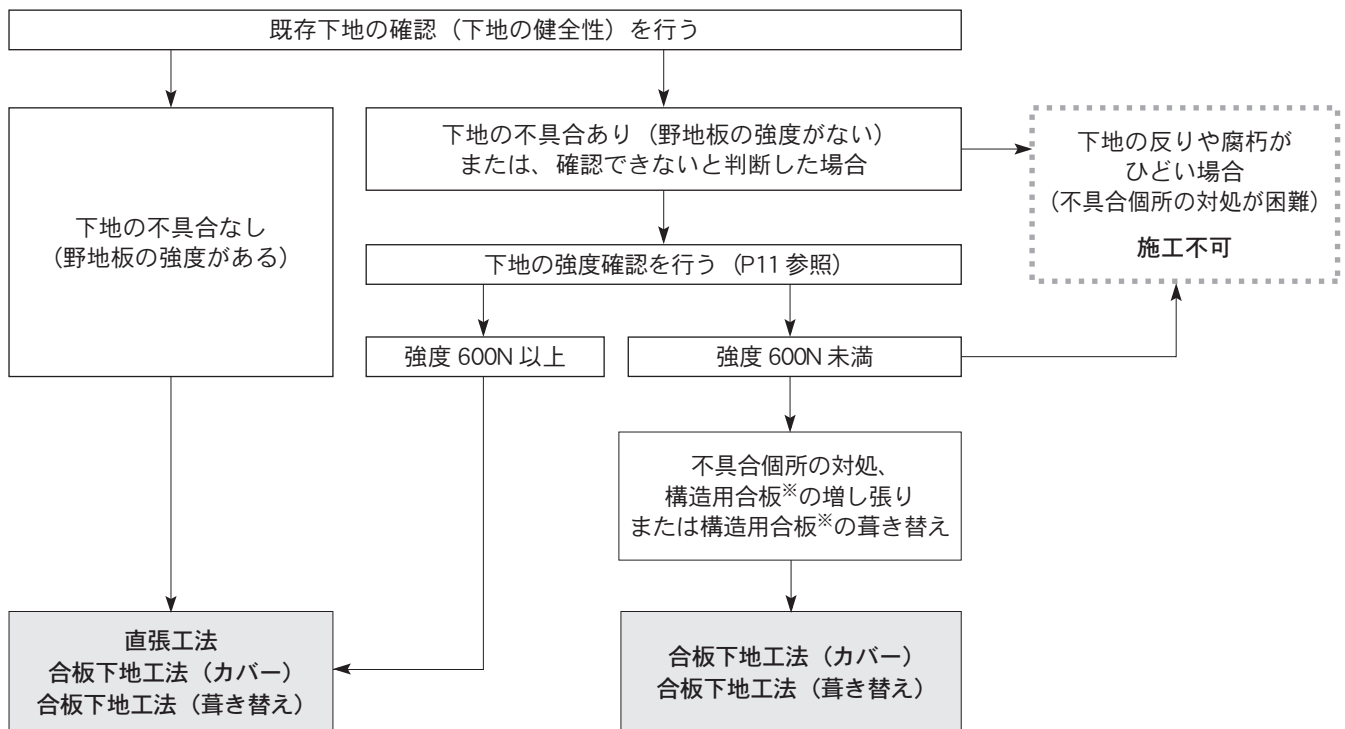
工法の確認

●既存屋根による工法の選定



●既存下地の状態による工法の選定

- ・既存下地の状態を確認してから工法を選定してください。
- ・改修用物件チェックシート（P77参照）を併せて確認してください。



※ 構造用合板 特類2級（厚さ 12 mm）

新規合板が既存下地（たる木、母屋など）に適正に留め付けられる前提とします。

既存のたる木や母屋などに不具合がある場合、不具合の対処を行ってから選定した工法で施工してください。

●下地強度の測定試験方法（推奨）

1. 測定試験方法

1) 測定箇所

- ・水が集まりやすい軒先部、ケラバ部、主棟部、隅棟部、谷部（ある場合）また、施工する上で下地の劣化が不安な箇所を選定し、実施してください。

2) 留め具

- ・既存屋根葺き材が化粧スレート、アスファルトシングルの場合、くぎまたはビスを選定し、使用してください。施工時に使用する留め具を用いて試験を行ってください。また、既存屋根葺き材が瓦等の場合、合板下地工法（葺き替え）に該当します。その場合、新築用施工説明書をご参照ください。

3) 保持力試験機



保持力試験機（例）

サンコーテクノ株式会社「テクノテスターKT-6」

- ・基本的な試験機の使用方法については、メーカーの取扱説明書に従ってください。
- ・施工時に使用予定の留め具を保持力試験で使用してください。

4) 試験手順（保持力試験機仕様の場合）

- ①保持力測定箇所の既存屋根葺き材に、使用する留め具より一回り大きな下穴をあける。

注意：下穴が既存下地に到達しないようにしてください。

- ②下地に留め具を留め付ける。

- ③保持力試験機を使用し、測定する。

5) 必要保持力

- ・600N/本以上の場合：直張工法または、合板下地工法（カバー）いずれかを選択。
- ・600N/本未満の場合：合板下地工法（カバー）または、合板下地工法（葺き替え）いずれかを選択。

注意：十分な安全率を見込んだ数値になっています。

2. 測定試験後の既存屋根葺き材の対処

- ・試験により既存屋根葺き材にあいた穴、測定作業中に割れ、欠けなどが発生した場合は、シーリング処理など十分な補修を行ってください。また、測定試験後に屋根の施工を行わない場合は、下葺き材を含め試験箇所の補修を再度行ってください。

●ジョイント下地の施工について

- ・合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部すべてにジョイント下地を施工してください。
- ・ジョイント下地の施工手順は、P68を参照してください。

	勾配	流れ長さの制限	ジョイント下地
直張工法	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	不要
	3.5 寸以上	20m以下	
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	ジョイント下地を施工
	3.5 寸以上	20m以下	不要

下葺き材・留め具の選定

●たる木留めの場合（標準施工）

- ・本体の留め付けは、たる木留めを推奨します。
- ・対象工法や勾配により、指定の下葺き材の施工が必要です。
- ・下の表を参照して選択してください。

・工法と勾配による下葺き材の選定

	勾配	流れ長さの制限	下葺き材
直張工法	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	粘着層付き改質アスファルトルーフィング※1
	3.5 寸以上	20m以下	アスファルトルーフィング 940 以上
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	粘着層付き改質アスファルトルーフィング※1
	3.5 寸以上	20m以下	改質アスファルトルーフィング※2

※1 指定下葺き材①もご使用いただけます。（P13参照）

※2 指定下葺き材②もご使用いただけます。（P13参照）

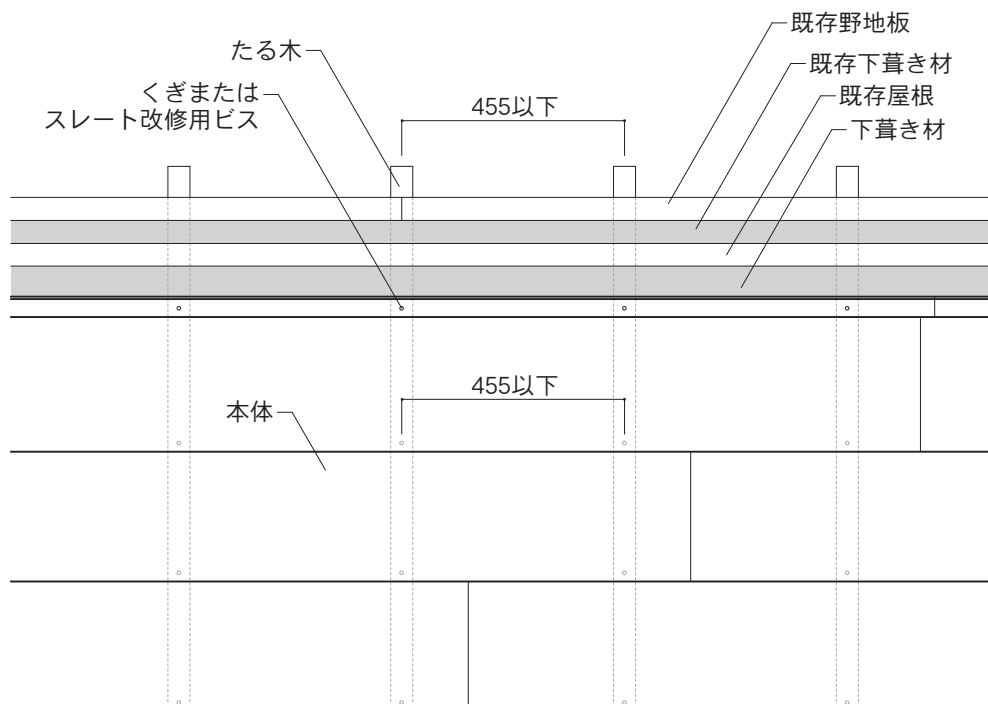
・留め具

工法により留め具の長さが異なりますので、下の表を参照して選定してください。

工法	名称	材質	サイズ
直張工法	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ 65 mm 以上
	スレート改修用ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ 50 mm 以上
	ルーフ用ビス 4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ 55 mm
合板下地工法（カバー）	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ 75 mm 以上
	スレート改修用ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ 65 mm 以上
合板下地工法（葺き替え）	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ 50 mm 以上
	木ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ 50 mm 以上
	ルーフ用ビス 4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ 55 mm

・たる木留めの施工位置（直張工法の場合）

指定の長さの留め具を使用し、たる木に本体を留め付けてください。



●野地板留めの場合

- ・やむを得ずたる木に留め付けられない場合は、野地板留めでの施工を選定してください。
- ・野地板留めは、指定下葺き材と指定ビスでの施工が必須となります。
- ・屋根の勾配により下葺き材の種類が異なります。指定下葺き材の表を確認し、選定してください。

・工法と勾配による指定下葺き材の選定

	勾配	流れ長さの制限	下葺き材の指定カテゴリー
直張工法	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	指定下葺き材①
	3.5 寸以上	20m以下	指定下葺き材①②
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	指定下葺き材①
	3.5 寸以上	20m以下	指定下葺き材①②

・指定下葺き材のメーカー名と商品名

指定カテゴリー	メーカー名	商品名	仕様
指定下葺き材①	田島ルーフィング株式会社	タディスセルフカバー タディスセルフ	粘着層付き改質アスファルトルーフィング
	ガムスター株式会社	SEタック II	
	日新工業株式会社	カスタムライト	
	七王工業株式会社	エコタック	
指定下葺き材②	田島ルーフィング株式会社	ニューライナールーフ タディスホワイト	改質アスファルトルーフィング
	常裕パルプ工業株式会社	サンライト G	
	七王工業株式会社	モラサン2号	
	田島ルーフィング株式会社	PカラーEX+	改質アスファルトルーフィング (ARK-04s 規格適合品)
	常裕パルプ工業株式会社	レギュラー	
	ガムスター株式会社	ニュースタンダード	
	日新工業株式会社	カッパ 23	

・留め具

当社指定ビスを使用してください。現場調達品は使用できません。

工法	名称	材質	サイズ
直張工法 合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	ルーフ用ビス 4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ 55 mm

・野地板留めの施工位置（直張工法の場合）

野地板に本体を留め付けてください。必ず指定の下葺き材とルーフ用ビス4×55を施工してください。

